

---

# 九尾と鬼

キングコング

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

九尾と鬼

### 【NZコード】

N4583C

### 【作者名】

キングコング

### 【あらすじ】

原作とは少し違った物語が今始まる…

## プロローグ（前書き）

初めて投稿します 駄文では有りますが宜しくお願ひします

## プロローグ

この世の果てとも言える場所でとてつもなく大きな戦いがあった…

後に妖魔大戦と言われる戦いだ

大戦は数百年にも及びその戦い大戦で多くの妖魔が倒れた

九尾の狐・玉藻

鬼族筆頭・剛鬼

四大妖魔に數えられるこの一匹もこの大戦でかなり傷ついた

その後、玉藻は木の葉の里の近くで眠りに着いた…

剛鬼は木の葉から離れた村の近くで体を休めた

その時木の葉の忍が玉藻の眠りを妨げてしまい九尾の襲撃という大惨事となってしまった

そこで四代目が命を賭け自身の息子のうずまきナルトに封印する  
木の葉から少し離れた所にある村では鬼が暴れ、村を壊滅させたのだ

その村でその日に生まれた赤ん坊・風鈴寺ショウは鬼に気に入られ  
その身に鬼を宿す事になった…

それから3年の月日がたつた

ショウは木の葉の上忍に拾われ木の葉に来ていた

その上忍も先日任務中に殉職し一人暮しだが明るい子に育つて  
居た

ナルトは里の人々により迫害を受けて居たが三代目火影や名家の者  
達おかげで元気に育っていた

ある日、そんな二人が出会った…

『君、何で泣いてるの？？』ショウはナルトに尋ねた

『君も、俺の事虜めるつてば？？』

ナルトは泣きながら答えた『虜めたりなんかしないよ？そつだ？僕と友達になろうよ？』

『あんた、誰だつてば？？』『あ、まだ名前を言つて無かつたね僕は風鈴寺ショウ、ショウつて呼んでね』『俺は、うづまきナルトだつてばよ？』

これが二人の出会いだ

## 第2話

それから数年ナルト達は毎日のように修行し火影直属の暗部（以下火暗）となっていた

木の葉の里の近隣の森 『フツ、この口向のガキを売れば俺は一気に大金持ちになれるぜ』

木の葉の中忍ミズキだ

手の中には縛られた女の子が居る眠っているようだ

『ミズキ先生、何してるんだってば？？』

『お、お前はナルト君か 君こそ何をしてたんだい？？』

ミズキは一瞬焦るが相手がアカデミー生と解り冷静になつたみたいだ

『修行だってばよ！俺ってば卒業試験一回落ちてるから次こそ受

かりたいってばミズキ先生その娘どうしたってば？？』

『くつ、見られたからには死んでもらわないとなお！…』

ミズキはクナイを取り出しナルトに投げようとするとそれは叶わなかつた

後ろから来たショウの跳び回し蹴りが綺麗にミズキのこめかみに直撃し意識が飛んでしまったからだ

『ナルト、油断してたら駄目だろ』

『助かつたってばよショウ所でこの子誰？？』

『ハア…やっぱり気付いて無かったか…良く見てみろよ 口向ヒナタ俺らと同じ年のアカデミー生だよ』

そういうわれナルトは確認する

『あつ！…本当だつてばよ！…』

『つたく…俺はジイさんに報告しようとから、お前はその娘家に送つてやれ』

『解つたつてばよ！…』

ナルトの言葉を聞くとショウは瞬身の術で姿を消したそして、ナルトはヒナタを背負い日向家へと向かった日向家へ着くと所々で円形

に削れた地面が見えた

『な、何だつてば？？これ…汗』

実は、これは日向家頭首日向ヒアシが愛娘ヒナタが掠われた事で暴走した結果だ

『ヒナタを掠つたのは貴様かあ～！！』

チャクラ全開で現れたヒアシ曰の前にはヒナタを背負つたナルト：

ヒアシの思考回路

犯人は現場に戻る + ヒナタを背負つている= 犯人！！

犯人は現場に戻る + ヒナタを背負つっている= 犯人！！

壊れています…汗

『ヒナタを返せえ～！！』

『う、わっ、ちょっ、オッチャン、ストップ！！』

次々と繰り出される掌呈を必死に交わしながら言づがもちろんナルトの言葉は聞こえる筈もない

『問答無用～！！八卦掌・回天！！』

『う、うわ～～～～』

日向家頭首の回天を喰らい後ろに吹つ飛ぶナルト&ヒナタ

『きやつ、な、何？？』

ヒナタが目を覚ましたようだ

『あ、ヒナタ大丈夫だつてば？？』

『え、あ…、ナ…、ナルト君…だ…大丈夫だよ…痛…』

ナルトが目の前に居たので真つ赤になるヒナタ

どうやら、先程の衝撃で足を挫いたようだ

それを見たヒアシは

『貴様あ～ヒナタに何をする～！！』

怪我させた本人：

『八卦・剛打掌！！』

『くつ 霸道撃！！』

ナルトも手にチャクラを貯め放出しながら掌呈を放つがやはり名家の力、ナルトが押し負ける…

『ぐつ…』

『風鈴時流・剛旋風！！』

『つたく、帰るのが遅いから心配して来てみたら…何が起こっているんだ？？』

ショウが心配して戻つて来たようだ  
先程、ショウの剛旋風を喰らい吹っ飛ばされたヒアシだが、すぐ立ち上がった

『ヒナタ、オッチャン止める方法つて知ってる？？  
『えつ…う、ううん、解かない…ごめんなさい…』  
いきなりショウに質問され、ヒナタは驚いていた

その時、『娘を返せえー！…』

ヒアシが襲つてきた

『どうするつてば？？ショウ？？』『解らんー！…とりあえず氣絶させるー！』

ショウがそういった時…

『八卦・激烈掌！！』

『風鈴寺流・守の巻・螺旋！…』

ショウが螺旋を描くよにヒアシの掌型をかわし懐に入る、そして

『風鈴寺流・攻の巻・巖撃！…』

螺旋からの回転力をそのまま、肘打ちを当てる…！

『ナルト！…やれ！…』

『わかつたつてばよ！…駿攻！…』

するとナルトから目で確認出来る程のチャクラが放出された

『行くつてばよー！…』ショットと音が鳴りナルトが消える『四連突！…！』

四つの衝撃が走り、ヒアシは氣絶した

『ふうー終わつたつてばよ』

『まだだ、ヒナタどうあるよ？？』

『ヒナタに決めてもらひつてば』

『ヒナタどうする？？俺ら実力隠さなきやならない、だから選んでくれ記憶を消すか仲間になるか』

『え、私わ……仲間になる』

『そ、うか……解つた、じゃあ、これから宜しくな』

『頼むつてばよ』

こうして、3人に友情が芽生えた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4583c/>

---

九尾と鬼

2010年10月11日13時49分発行